

トップメッセージ

■ 社会にとって、「なくてはならない会社」を目指します

持続可能な社会の実現に対する企業への期待が高まっています。エプソンの技術・商品は、「省・小・精の技術」による低環境負荷を強みとしているため、その期待に十分にお応えできるものであると自負しています。

エプソンは、1942年長野県の諏訪湖のほとりで時計工場として創業しました。創業者の山崎久夫の人となりを示した「誠実努力」を事業活動の基本として、当時の業界の規格とは異なるオリジナル設計の機械式時計を開発し、さらに機械式時計に比べて圧倒的な精度を誇るクォーツ時計を世界で初めて開発・量産化しました。その過程で、世の中に無い

ものは、自分たちで生み出すという「創造と挑戦」の社風が育まれてきました。この時計製造で培ってきた「省・小・精の技術」をベースに、プリンターをはじめ、プロジェクター、ウォッチ、ロボットやマイクロデバイスなど今日のエプソン商品が生まれています。同時に、創業にあたり「諏訪湖を汚すことがあってはいけない」とした環境保全に対する想いも受け継ぎ、世界に先駆けてフロンレスを宣言し、1993年には全世界のエプソングループの生産工程でフロン全廃を達成しています。また、事業活動の中で、社会の課題解決のために貢献できることを考え、実践してきました。エプソンは、2004年に国連グローバル・コンパクトに参加し、「人権、労働、環境、腐敗防止」に関わる10原則にのっとった取り組みを企業活動の中で展開してきており、2018年には、SDGs(国連で採択された「持続可能な開発目標」)への貢献をコミットしました。

現在、私たちエプソンは、オフィス環境と生産現場の革新により、産業構造を変革し、循環型経済を牽引することを目指しています。主力商品であるプリンターには、独自に開発したピエゾインクジェット方式が搭載されており、この技術は、レーザー方式に比べ、熱を使わず、構造がシンプルで、電力消費が少ないというメリットがあります。また、高速印刷ができるラインインクジェット複合機や、プリンターに大容量インクタンクを搭載することによって、環境負荷低減や業務効率の向上を価値として提供しています。さらに、乾式オフィス製紙機を組み合わせることで、オフィス内での紙循環サイクルを構築し、より低環境負荷のオフィスを実現することができます。また、プロジェクターを用いた円滑なコミュニケーションも将来のオフィス環境に必要とされる価値として提案しています。一方、熱を使わないピエゾインクジェット方式は、捺染業界でもアナログからデジタル印刷へのテクノロジーシフトを起こしています。印刷のデジタル化により、オンデマンド印刷による多品種少量生産に短納期に対応できるようになるだけでなく、アナログ捺染に必要な刷版や洗浄工程が不要となる生産プロセスへと変わり、インクのロス低減や洗浄水が要らなくなることで、環境への負荷低減や労働環境の改善が図られます。

エプソンは経営理念に「なくてはならない会社」を目指すことを掲げています。そのためには、お客様がメリットを享受でき、かつ社会課題解決に向けた貢献ができる商品・サービスを提供し続けていかななくてはなりません。これからもお客様のニーズや期待に誠実に向き合い、その期待を超えるべく、エプソンのDNAである「省・小・精の技術」を核にイノベーションを起こし、エプソンでしか成し得ない新しい価値を創り出し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



セイコーエプソン株式会社

代表取締役社長

碓井 総